

## 無防備の取り組みは、

### 展望”が見える運動

亀岡市 八木優子

8月京都での全国大会に参加し、「亀岡でもやるぞ」という思いをまた大きくして帰りました。3年前、イラク国際民衆法廷の集会に参加した時に、無防備運動の取り組みをしている人たちのことを知りました。初めて耳にする「無防備条例」。「何だ？それは。」それからずっと「どういう取り組みなのだろうか」と関心をもつようになりました。その後、枚方市での署名の応援に行き、その時に、署名をしてくれる人たちの胸の奥にある平和への思いをひしと感じることができました。無防備運動の取り組みは、戦争はイヤだ！と思っている人たちが署名することで意思表明できるとも意味のある運動であることを実感したのです。

私は亀岡で市民グループ「くらしを見つめる会」を仲間とつくり、情報交換や通信を毎月発行しています。その会の集まりで無防備運

動について話し合ったり、通信に集会での報告などを載せています。一緒に活動している周りの人たちに、無防備運動のことを知ってほしいくて、大阪や枚方での取り組みについて話してきました。現在、私たちの仲間から市民派議員をひとり送り出しているの、議員使用などでも無防備条例について載せることもしています。また、条例制定の意味や運動のイメージをつかみたいのの思いから、枚方市の取り組みを聞く学習会も持ちました。私の周りには「亀岡でもやりたい」という気持ちを持つている人は何人かいます。が、「この保守的な亀岡では難しいのでは…」、「市民運動の基盤もないところで署名しても集まらない」「生年月日や捺印をしたらうかつことへの責任が重い」などなどの声があがり、踏み出せないのが現状です

この間、私は、少しでも実現の方法をつかもうと、京都市や向日市にも出かけました。京都市で開かれた無防備全国ネットの集まりでは、各地での取り組みの報告やこれから始めるといふ人たちの決意表明を聞き、広がりを感じました。国立市のように市長が賛

成意見を述べるような自治体、また、賛成する議員が増えていけば条例制定も現実化する！という大きな希望を持つこともできました。「話を聞いて感動で終わらせていてはダメだ。亀岡での直接請求運動に結び付けていかなければ…」との思いを強くしています。

今回の全国大会でも、また一歩前進できる勇気をもらいました。「始める前の不安や心配はどこでもだいたい同じ。動き出せばそこから広がる。」「一人でも手を挙げる人がいたら始められるよ。同じ思いの人が必ず増えていく。」と多くの方が話していました。組織や既成の大きな団体が動くのではない、平和への思いを持つ一人ひとりの結果がこの直接請求運動なんだと思います。いろんな立場を超えて、生活者が主体的にかかわることのできる運動です。私の周りにも「展望がないのではないか」といふことを言う人がいますが、今のこの閉塞的状況の日本で唯一「展望の見える運動」だと確信しています。

報道の国家統制はかなり進み、市民生活の中にもじわじわと国による監視・管理体制は広がって

て、自由な市民活動もどつなつていくのかと私は危機感を持っています。国への協力や義務強化を市民に押し付けても「安全」な街づくりなんてできるわけがありません。安心に暮らせる街とは？どんな社会を子どもたちに残したらいいのか。そのためにどのような方法があり、何を選択していくのか。住民の生命を守るといふ自治体としての責務を果たすために、主権在民、住民自治をはっきりと見えるものにしていかなければなりません。普通に生活する人たちの権利として、このような無防備条例運動があるということを知ってほしいです。生活の場で憲法のなかみを具現化することは特に今、重要な意味を持ちます。亀岡でも「無防備運動」に取り組みたい！



保津川くんだり